

病害虫防除技術情報第17号

平成 26 年 1 月 29 日
三重県病害虫防除所

イチゴのハダニ類が多発しています

1. 対象作物：イチゴ
2. 病害虫名：ハダニ類
3. 発生状況：多い

- (1) 1 月中旬の巡回調査（県内 12 圃場）では、寄生株率 32.0%（9 年平均 18.9%）、発生程度 16.2（9 年平均 11.0）と平年より多く、12 月以降多い状態が続いています（図）。
- (2) 一般圃場においては、発生量は平年より多い状況です。ただし、圃場により差が見られます。

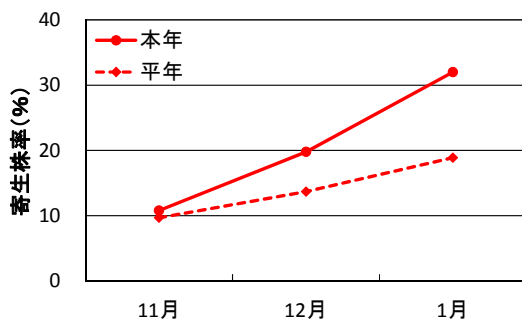


図. 巡回調査におけるハダニ類の寄生株率
※2013 年 11 月～2014 年 1 月の調査結果。
※各圃場 50 株調査。
※平年は過去 9 年間の平均値。

表: イチゴのナミハダニに対する薬剤感受性検定試験結果
(2013年、三重県農業研究所)

成分名	商品名	薬剤の分類※1	検定結果※2
ピフェナゼート水和剤	マイトコーネフロアブル	その他	◎
アセキノシル水和剤※3	カネマイトフロアブル	虫20B	○
シフルメトフェン水和剤	ダニサラバフロアブル	虫25	△
シエノピラフェン水和剤	スターマイトフロアブル	虫25	×

※1: 平成25年版三重県病害虫防除の手引き参照。
※2: 各薬剤とも7個体群を検定。雌成虫の補正死亡率が85%以上の検定事例数の割合(%)を算出し、その割合が75%以上:◎、50%以上75%未満:○、25%以上50%未満:△、25%未満:×、とした。
※3: アセキノシル水和剤は葉害(葉裏の変色)に注意する。

4. 防除上の注意事項

- (1) ハダニ類は薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用により薬剤感受性が低下する恐れがあります。県内においても、各種薬剤に対して感受性が低下した個体群が確認されています(表)。
- (2) 薬剤の防除効果が低い場合には、主要なダニ剤に対して感受性が低下していることが考えられますので、対策として気門封鎖剤や天敵(カブリダニ類)を活用してください。
- (3) 薬剤散布前に下葉を整理し、葉裏にもかかるように丁寧に散布してください。
- (4) 現在発生が少ない場合でも、多発すると防除が難しくなります。圃場全体をよく観察し、発生密度の低いうちに薬剤散布を行ってください。
- (5) 薬剤の散布にあたっては、収穫前日数とともに、天敵やミツバチに対する影響を十分考慮して、薬剤の選択を行ってください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。